

西暦 2026 年 6 月 18 日

2025 年 7 月から 2028 年 3 月までに皮膚欠損の治療中のため
産業医科大学病院を受診する患者さん及びご家族の方へのお知らせ

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

皮膚欠損創に対して自家網状分層植皮を用いた各術式の
有益性を比較する前向き観察研究

2. 研究期間

研究機関の長の許可日 ～ 2028 年 3 月 31 日

3. 研究機関

産業医科大学

4. 研究責任者

産業医学大学病院形成外科 准教授 遠藤淑恵

5. 研究の目的と意義

この研究は慶応義塾大学医学部救急医学 講師 佐藤幸男を研究代表者とする多機関共同研究です。皮膚にできた傷を治すためには、自分自身の皮膚を薄く取って移植する方法や、人工的に作られた皮膚（人工真皮）を組み合わせる方法があります。治療法は傷の場所や大きさ、体の状態に合わせて選ばれますが、どの方法が最もきれいに傷あとを治すかはまだ分かっていません。このため、今回の研究では、治療後の傷あとや治り方を詳しく調べ、より良い治療法を探ることを目指しています。

[目的]

皮膚の傷に対して行われるさまざまな移植方法のうち、どの方法が最もきれいに傷あと（瘢痕）を治すかを明らかにすることを目的としています。

[意義]

よりきれいに傷あとを治し、皮膚を取る範囲を小さくし、できるだけ早く治すことができる移植方法を明らかにすることで、将来、患者さんの生活の質（Quality of

Life) の向上に役立てることが期待されています。この研究結果は、同じような治療を受ける患者さんにとって大きな助けになると考えられます。

6. 研究の方法

この研究は、18 歳以上で皮膚に傷（皮膚欠損）ができ、植皮手術が必要と判断された方を対象に行います。年齢、性別、これまでの病歴、生活習慣、薬の使用歴、傷や手術に関する診療情報を収集し、手術後 3 か月の時点で、患者さん自身と医療者による傷あとの評価を行います。また、傷の治るまでの日数や皮膚採取範囲、感染の有無も調べます。対象は最初に行った手術のみです。

集めた情報は匿名化した上で必要に応じて協力医療機関と共有されますが、患者さん個人が特定されることはありません。

7. 個人情報の取り扱い

この研究では、個人情報（住所、氏名、生年月日）を削除し、新しい符号を付けたうえで厳重に管理し、匿名化して使用します。解析結果が必要な場合には、研究責任者の管理下で符号を元に戻し、ご説明することができます。収集した情報は、研究終了報告日から 5 年または最終研究結果報告日から 3 年のいずれか遅い方まで保管後、適切に廃棄します。

同意を撤回された場合には、ご希望に応じて情報も同様に廃棄いたします。

8. 問い合わせ先

産業医科大学病院形成外科 遠藤淑恵

福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1 電話番号 093-603-1611

8. その他

研究への参加に対する直接的な利益はありません。また、費用の負担や謝礼也没有ありません。この研究は一切の利益相反はなく、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。